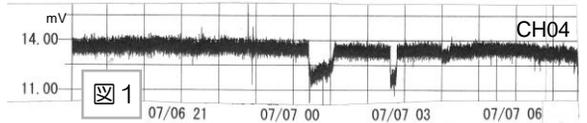


ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

No1778 続報 CH04に直前特異認識出現 →



終息認識した火山噴火型前兆変動継続 前兆関係再検討 → 7/23±3の可能性

表題及び図1のとおり、本日未明にハヶ岳のCH04に短時間の特異変動が観測されました。

CH04は4/21.1極大認識でPBFが出現しています。弱い特異変動は6/22まで継続出現し、6/23以降は静穏化していました。本日未明の短時間特異変動は4/21.1極大に冠した直前特異である可能性が考えやすく、極大～発生：直前特異～発生=6:1の経験式を使用すると、7/22±3 発生の可能性が計算されます。

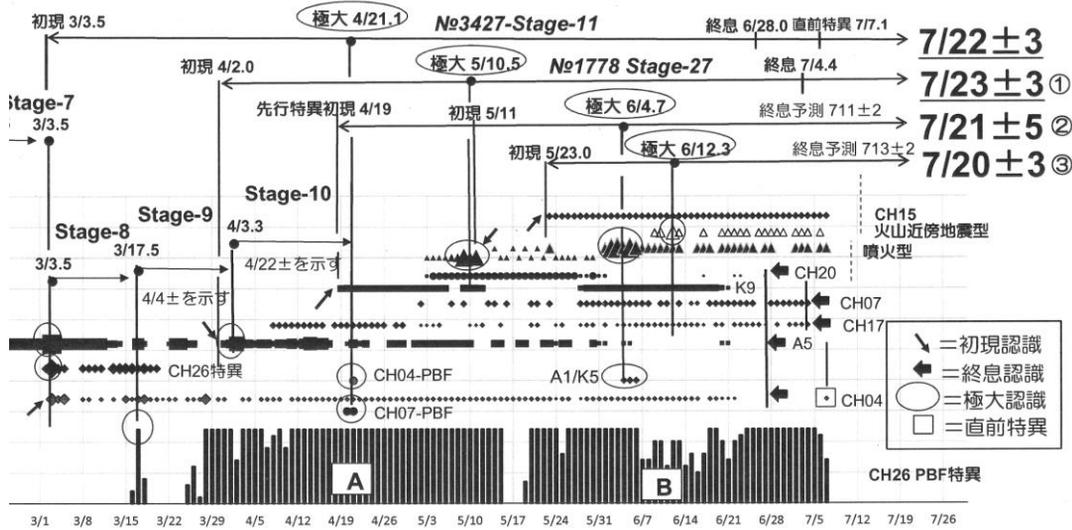
この観測事実から現在検討中の7/14±3 発生の可能性は誤りであると認識され、改めて前兆関係を再検討しました。

終息の可能性としたCH26の火山噴火型前兆変動も継続出現しており、7/14±3 発生の可能性は考えにくくなっていました。改めて再検討した前兆関係の結果は上図2のとおりです。これが正しい場合には、現在継続出現中の前兆変動「CH15特異・CH26火山噴火型・CH26火山近傍地震型・CH26-PBF特異」は、右の時期に終息する可能性が推定されます。これらを確認観測し、発生時期を計算し、修正したいと考えます。続報にご注意下さい。但し、大型地震の場合は完全に前兆が終息しない場合もあり得ます。解説資料21頁参照。

図2

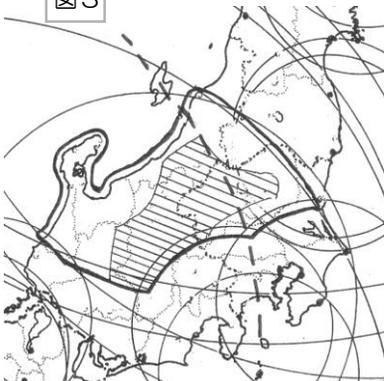
No3427=No1778の別形態多段階ステージ前兆変動

① 噴火型=No1778の第27ステージ ② 噴火型別形態 ③ 火山近傍地震前兆別形態



CH26火山噴火型=7/11±2 CH26火山近傍地震前兆型・CH15特異=7/13±2
CH26-PBF特異=7/11±2 または 7/13±2

図3



最近の観測からは点線より西側領域に震源がある可能性が考えやすい

図4



可能性が考えやすい推定領域内の主な火山 火山近傍の可能性高い

●推定領域：図3の太線領域内=大枠推定領域
図3斜線域=可能性が考えやすい推定領域
震源が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：M8.0±0.3
単発の場合=M8.0±0.3
複合の場合=M7.4±0.3+M7.3±0.3 他等

※噴火型前兆変動が観測されたため地震に伴い震源近傍火山噴火の可能性は否定困難。但し過去例と異なるため確実に噴火するとは断定困難

●推定時期：7/23±3の可能性有
※最終前兆変動終息を観測後発生日修正予定

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3